

平成 30 年度大学図書館職員長期研修講義  
「大学と大学図書館」

平成 30 年 7 月 3 日（於 筑波大学）

京都大学図書館機構長・附属図書館長  
工学研究科電気工学専攻・教授  
引原 隆士

1. 大学と図書館（概要）
  - ・世界における大学の創設と図書館の発祥
  - ・日本における大学の創設と図書館
  - ・学術情報と図書館の変化（過去・現在・未来）
2. 日本の大学をめぐる状況について（30 年の変化）
  - ・大学院重点化前後
  - ・国立大学法人化後
  - ・国立大学改革(2016)
  - ・社会構造の変化と国・大学の研究力低下問題
3. 大学図書館をめぐる状況について
  - ・電子ジャーナル・クライシス：資源が負債に  
ビッグディールとパッケージ  
研究者の評価と電子ジャーナル  
APC のあり方
  - ・研究資源アーカイブ：大学の資産の活用  
デジタル化の先へ（IIF による機関国際連携）
4. 図書館による教育支援・研究支援について
  - ・教育支援：アクティブ・ラーニング  
からコモンズの設置（その可能性と課題）
  - ・研究支援：機関リポジトリ・アーカイブ（研究成果発信の課題）
  - ・オープンアクセス：戦略（負債を資源に）  
arXiv → 投稿 → リポジトリ → オープンデータ

5. 国立大学図書館協会ビジョン 2020 について
  - ・位置づけ・意義・価値
  - ・大学図書館の今後の可能性
6. オープンデータ・オープンサイエンスへの道筋について
  - ・内閣府・「国際的動向を踏まえたオープンサイエンスの推進に関する検討会」から
  - ・文科省・第9期学術情報委員会から
7. まとめ